

麻酔分娩（無痛分娩）についての説明・同意書

当院で無痛分娩を受けられる方に、ご説明のうえ署名をいただく書類です。

お名前様

1. 目的および必要性について

- 分娩に対する不安や恐怖心、陣痛はストレスの原因となります。ストレスは子宮の血流を減少させ、おなかの赤ちゃん（胎児）が苦しくなってしまうことがあります。
- したがって、痛みをとることは胎児にとって都合が良いと言われています。
- 血圧が高かったり、心臓に病気がある妊婦さんの場合は、血圧を安定させるために麻酔が必要になることもあります。

2. 方法

区域麻酔 — 『硬膜外麻酔』／『脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔（CSEA）』

- 背中を消毒した後、痛み止めの注射を行います。
- 硬膜外腔という狭いスペースに、細いチューブを入れます。CSEAの場合は、先にくも膜下腔に麻酔薬を入れ、その後、硬膜外腔に細いチューブを入れます。
- チューブから麻酔薬を少しずつ注入し、陣痛の痛みを感じなくします。

※ 区域麻酔ができない場合があります。血液が固まりにくい状態のとき、感染しやすい状態のときなどです。

バランス麻酔

鎮痛薬と麻酔薬を組み合わせた鎮痛方法です。分娩の進行状況によって、鎮痛薬と麻酔薬の筋肉注射を行っていきます。

3. 危険性・合併症・副作用について

胎児への麻酔の影響

麻酔薬は胎盤を通過してわずかに赤ちゃんへ移行しますが、たくさんの新生児を調べた結果、麻酔薬の影響はないと言われています。

お母さんへの副作用

- 低血圧、発熱、かゆみ、頭痛、吐き気が現れることがありますが、ほとんど一時的なものです。
- きわめて稀（50,000～100,000例に1例程度）に、麻酔薬中毒や下肢神経障害など、重篤な合併症が起こることがあります。

以上、説明いたしました。

説明日 令和 年 月 日

医療機関 たて産婦人科

産婦人科 医師 楠 浩行 印

同意書

たて産婦人科 殿

私は上記医療の説明を受け、内容を理解しましたので同意いたします。また、上記医療を行ううえで必要な処置、および上記医療において予測されない状況が発生した場合、それに対処するための緊急処置を受けることも併せて同意します。

同意日 令和 年 月 日

患者氏名 印

親族または理解補助者 印

（患者との関係）